

令和元年 第9回

川西市教育委員会（定例会）議事録

川 西 市 教 育 委 員 会

会議日程・付議事件	1
出席者	2
説明のため出席を求めた者	3
議事録作成者	3
審議結果	4
会議の顛末（速記録）	5 ~ 23

会議日程・付議事件

会議日時 令和元年6月20日(木) 午後3時00分

場 所 川西市役所 4階 庁議室

日程 番号	議案 番号	付 議 事 件	備 考
1		議事録署名委員の選任	
2		前回議事録の承認	
3		事務状況報告	
4	報告第4号	専決報告について(令和元年度川西市一般会計補正 予算について)	
5	議案第14号	図書館協議会委員の委嘱又は任命について	

出席者

教 育 長 石 田 剛

委 員 加 藤 隆一郎
(教育長職務代理者)

委 員 服 部 保

委 員 坂 本 かおり

委 員 治 部 陽 介

説明のため出席を求めた者

教 育 推 進 部 長	若 生 雅 史
こ ども 未 来 部 長	中 塚 一 司
教 育 推 進 部 副 部 長	中 西 哲
教 育 推 進 部 副 部 長 (学 校 教 育 担 当)	山 戸 正 啓
教 育 推 進 部 参 事 (学 務 課 担 当)	森 下 宣 輝
こ ども 未 来 部 副 部 長	岡 本 敬 子
こ ども 未 来 部 参 事 (幼 児 教 育 保 育 課 担 当)	喜 多 川 昌 之
教 育 総 務 課 長	岸 本 典 子
学 務 課 長	志 波 仁 史
学 校 教 育 課 長	高 橋 忠 大
教 育 支 援 セ ン タ ー 所 長	岡 坂 憲 一
社 会 教 育 課 長	大 屋 敷 美 子
社 会 教 育 課 主 幹	田 中 肇
中 央 図 書 館 長	村 山 尚 子
川 西 公 民 館 長	藤 井 恵 子
こ ども 支 援 課 長	岩 脇 茂 樹
幼 児 教 育 保 育 課 長	増 田 善 則
こ ども ・ 若 者 ス テ ー シ ョ ン 所 長 兼 青 少 年 セ ン タ ー 所 長	木 山 道 夫
公 共 施 設 マ ネ ジ メ ン ト 課 長	林 正 紀

議事録作成者

教 育 総 務 課 主 査	四 方 田 政 樹
---------------	-----------

議案等審議結果

議案 番号	議 案 名	提 出 年月日	議 決 年月日	議 決 結 果
報告 1	専決報告について（令和元年度川西市一般会計 補正予算について）	01.6.20	01.6.20	承 認
議案 14	図書館協議会委員の委嘱又は任命について	01.6.20	01.6.20	可 決

[開会 午後3時00分]

石田教育長 よろしいですか。それでは、只今より、令和元年第9回川西市教育委員会（定例会）を開会いたします。

石田教育長 それでは、「本日の出席者」をご報告いたします。本日は、全員出席でございます。なお、「事務局職員の出欠」につきましては、事務局から報告をお願いいたします。

教育総務課長（岸本） 本日の「事務局職員の出欠」について、ご報告申し上げます。本日は、説明のため出席を求めた者は全員出席でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

石田教育長 次に、本日の「議事日程」につきましては、配付しております議事日程表のとおりであります。

石田教育長 これより日程に入ります。日程第1「議事録署名委員の選任」を行います。教育長において、服部委員、坂本委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。

石田教育長 では次に、日程第2「前回議事録の承認」でございますが、事務局において調製し、第8回定例会の議事録の写しをお手元に配付しております。事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課長（岸本） それではまず、第8回定例会の議事録につきまして、ご説明申し上げます。1ページに会議日程・付議事件、2ページに出席者を、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに審議結果を掲載してございます。議事録につきましては、5ページからでございます。会議次第に基づきましてご審議いただきました経過等につきまして、調製させていただいております。

署名委員の署名につきましては、加藤委員、服部委員にご署名を頂戴しております。

以上でございます。

石田教育長 説明は終わりました。只今の説明について、質疑はございませんか。よろしいですか。

石田教育長 それでは、お諮りいたします。第8回定例会の議事録につきまして、これを承認することにご異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

石田教育長 ご異議なしと認めます。よって、議事録につきましては、承認されました。

石田教育長 では次に、日程第3「事務状況報告」であります。事務局から報告をお願いいたします。

教育推進部長
(若生) それでは、教育推進部から、1点目、「6月市議会一般質問について」ご報告申し上げます。

6月市議会の一般質問が6月の13、14、17日の3日間行われ、18人の議員の皆様から質問が行われました。教育委員会に関係する質問は12人の議員から出されました。

教育推進部とこども未来部の両部に関連する項目として、電動アシスト自転車の補助金・助成金制度について、子どもの安全確保について、臨時職員の募集・登録状況について、医療的ケアが必要な子どもを支えることについての4点、ご質問をいただきました。

教育推進部関連では主に13項目ございまして、1点目が教職員の人材確保について、2点目が部活動のあり方について、3点目は登下校時の子どもたちを守る取り組みについて、4点目が川西市の教育について、5点目が子どもの食育の推進について、6点目が子どもの居場所づくり支援について、7点目が(仮称)PTAあり方検討会の実施について、8点目が市立小中学校の適正配置について、9点目が中学校の制服を再考することについて、10点目が香害 香りの害、香害と化学物質過敏症への対応について、11点目が市立小中学校等における水道水による熱中症予防について、12点目が子ども自主活動支援事業について、13点目が小中学校における働き方改革の実態と今後の方向性について、ご質問をいただきました。

こども未来部関連では、ひきこもり支援について、こども・若者総合相談窓口の状況について、ご質問がございました。

いろいろな視点からご質問、ご提案をいただき、今後、検討を重ねてまいりたいと考えます。

続きまして、2点目、「令和元年度川西市立学校運動会」についてでこ

ざいます。

昨今の異常気象や自然学校の日程等を鑑み、5月、6月という春の時期に運動会を実施する学校がございます。本年度は4校、5月25日に陽明小学校、東谷小学校、6月1日に川西小学校、多田小学校がそれぞれ実施いたしました。新しい年度に変わり、特に新1年生に関しましては、入学以来2カ月足らずでの学校行事ではありましたが、走・表現・団体競技等において、集団での動きを身につけ、一生懸命に取り組む姿を見ることができました。

また、4校とも、本部等に加え、すべての児童席にテントを設営するなど熱中対策を行いましたが、多田小学校においては2名の児童が体調不良を訴え、救急搬送されるという事態が発生いたしました。2名のうち1名は入院加療の処置が行われましたが、現在は2名とも元気に登校していると学校から報告を受けております。

今後、より一層の健康管理に努めるよう、各校に指導を徹底するとともに、事故発生時の初動連絡体制の再構築などを図ってまいります。

来賓としてご訪問いただきました教育委員の方々におかれましては、ご多忙の中、子どもたちの演技をご観覧いただき、ありがとうございました。

また、川西養護学校では、6月8日にわくわくサタデーが開催され、午前中はカローリングゲームや借り物リレーなど、午後はハンドベルによるコンサートが開かれ、和やかな雰囲気の中で親睦が図られました。

残りの12小学校、7中学校、6幼稚園、6保育所、2認定こども園につきましては、9月、10月の実施を予定しております。

報告は以上でございます。

こども未来部長
(中塚)

続きまして、こども未来部から、3点目の「加茂こども園の運営状況について」ご報告いたします。

平成31年4月に開園いたしました川西市立加茂こども園の6月1日現在での在籍園児数は、1号園児129人、2号園児61人、3号園児26人の計216人となっております。4月から、1号園児の給食、午後4時までの一時預かり保育を実施し、2号、3号園児の午後8時までの延長保育を開始しております。

通園範囲といたしましては、多くの1号園児が園区内から通園されておられます。園区設定のない2号、3号園児につきましても、約9割弱の園児が園区内の南花屋敷、加茂、下加茂地域から通園されておりますが、園区外からは久代、東久代、花屋敷、中央町、栄根、けやき坂、西多田地域から通園されておられます。

公立では2施設目となる幼保連携型認定こども園として開園いたしました。定員230人というこれまでにない大きな規模であること、また、職員も認定こども園での勤務は初めての経験であることなどから、当初は戸惑いもあったと聞いております。園長初めすべての職員が懸命に努力をして、昨年4月に開園いたしました牧の台みどりこども園の運営なども参考にしながら、子どもたちの健やかな成長を支えるために日々職務に当たっております。

しかしながら、保育士の人材確保は本市においても厳しい状況にありまして、6月に加茂こども園内に開設を予定しておりました地域子育て支援拠点としてのアップル加茂につきましては、開園を延期している状況でございます。

園の運営といたしましては、5月25日土曜日には、大型連休を過ぎて園の生活にもなれてきた園児の様子を、保護者の方にも見ていただくよう保育参観を実施いたしました。

また、園のホームページを開設し、子どもたちの日々の様子をお伝えするほか、5月からは園庭開放を週2回開始しております。

今後も、加茂こども園におきましては、安全で安心していただける運営が維持できるよう、状況を注視してまいりたいと考えております。

私からの報告は以上でございます。

教育推進部長
(若生)

続きまして、4点目、5月分の教育委員の皆様方の活動についてご報告をいたします。

加藤委員には、兵庫県市町村教育委員会連合会総会研修会、全国市町村教育委員会連合会総会及び近畿市町村教育委員会連合協議会第1回定期会長会議にご出席いただきましたほか、新任管理職を対象として、久代小学校、川西南中学校にご訪問いただきました。

服部委員には同様に、桜が丘小学校、多田東小学校にご訪問いただきましたほか、西宮市の都市型里山里地体験オープンセミナーで、川西市黒川の里山及び水明台、清和台の市民参加のまち山をご紹介いただきました。また、桜が丘小学校の児童約80人の里山体験学習にてご指導いただき、台場クヌギ、エドヒガン等についてご解説いただきました。また、阪神北摂里山大学の北摂里山大学において、日本一の黒川の里山林について講義いただきました。

坂本委員には、レフネック入学式、PTA連合会総会、兵庫県市町村教育委員会連合会総会研修会にご出席いただきましたほか、東谷小学校及び陽明小学校で行われた運動会、川西市立幼稚園教育研究会、社会福祉協議

会、ファミリー・サポート・センター主催の講演会及び教科書採択協議会にもご出席いただきました。また、川西北小学校、明峰中学校、川西中学校及び川西養護学校にご訪問いただきました。

治部委員には、兵庫県市町村教育委員会連合会総会研修会にご出席いただきましたほか、多田小学校、北陵小学校及び川西北保育所にご訪問いただきました。

主なものではございますが、ご報告させていただきます。

以上でございます。

石田教育長 只今の報告について、何かご質問はございませんでしょうか。よろしいか。

治部委員 例えば人材確保とか、子どもたちを見守る取り組みとか居場所づくりとか、そういうなかなか物言えぬ子どもたちの支援というところに質問が集まっているんだなというのを実感しました。こういうところにも積極的に考えていければ、川西の教育というのもどんどんどんどんよくなるんじゃないかなというのは、本当に僕、常々思うところなんです。なので、これがどうなるかというのは、ゆっくりと一緒に考えていく機会を大切にしたいななんて思いました。

石田教育長 ありがとうございます。私も、人材確保については、やっぱりかなり現場に苦労かけている部分もありますので、各担当も含めて、課長も含めて、早急に手を打たなければならないんですけれども、短期的にできる部分、呼びかけや募集の仕方に工夫することはあるんですけれども、中期的な点でいうと、やはり待遇面であるとか勤務のあり方について、ちょっと考えていかなあかんのちゃうかなというふうには思っています。非常に、学校現場も幼児教育の現場でも、それからほかの場面でも、枠はあるのに人材が埋まっていないという事実はありますので、その確保については、この後また、連携推進会議もありますので、前回もちょっと意見交換して、教育委員会として一致して取り組むことということで、全部の人材をまとめたりはしていたんですけれども、ちょっと考えていかないと深刻かなというふうには思っています。

一般質問で同じように働き方改革が出たんです。既にご存じのとおりと思いますけれども、今回の採用試験もまた倍率が下がっているんです。兵庫県の倍率がね。全国的に下がっているんです。つまり、教員になろうという人材自体の人数が減っているということなんですね。これは、1つは

他の職種も人材不足で、その待遇競争になっているというところが1つあるかなというのと、教育現場がやっぱりイメージが良くない。ブラックなイメージがあるというね。だから、働き方改革というのは、非常にそこから辺と密接に関係しているところがあって、今おる人材を救うという意味もあるけれども、これからの人材を呼び込むためにはそこを頑張らないと、子どもが好きやとか教育に興味があるだけでは人材が集まらない時代がもうやってきていると思いますので、今、治部委員ご指摘しているところ、非常に大きな問題ではあるんですけども、言ってもね、やれることはやっていかなあかんのですけれども、そのとおりだと思います。

教育現場、各委員行っていただいていますけれども、そういう苦しい状況も見られているんじゃないかなと思いますので、また協議会でもご意見いただきながらと思います。

治部委員 そうですね。

石田教育長 はい。

加藤委員 教育長、よろしいか。

石田教育長 はい。

加藤委員 僕も、先ほど紹介にもあったように東京に行く機会も、今、月1回のペースになってしまって非常に疲れておりますけれども。文科省が言っていることは、部長や教育長には資料提示したみたいに、やはりほかの業種に比べて教職に魅力がないと。1.6倍というようなところも出てきているから、兵庫、まだそこまでは下がっていないですね。

石田教育長 2倍は切っていないと思います。

加藤委員 2倍切っていない。だから、1.6倍ということは2人に1人というか、3人に2人は確実に志望したら就職できるというのが教職になっている。そこで文科省のやろうとしていることというのは、今、教育長も言われたように、ほかの業種に比べて魅力ある職場にせなあかんという、要するに、業種は違うんだけれども、就職先として対等に考えようという、そこで魅力をつくらうという考え方持ってきているんだけれども、僕はちょっとなじめないところがありまして、それは。僕らが小さいときから求めてきた

先生に対する像というのは、それは一般のサラリーマンの方がいけないというんじゃない、ただ教育というものは普通の産業とは全く違うところがあるというイメージ持っているわけであるから、そのところをどうにか加味して考えないと、何か待遇面の改善だけで、働き方改革というのはそこに重きを置いているから、それは当然乗っていかない話なんだけれども、そこはどんなふうにしたらいいかなというのを考えないと、お給料を上げたから人が集まった、よかったでは、教育は成り立たないかなという気はしております。

石田教育長

大体、統計によると、2倍を切ると人材がぐんと落ちるとするのはこの間も載っていましたが、2倍を切ったところが、今、加藤委員、ありましたけれども、幾つかの都道府県でもう2倍切っているという状態が出てきていますので、非常に厳しい状況続くんじゃない 兵庫県も下がっていますんでね。中学、教科によってはちょっと厳しいんですけども。

治部委員

今、加藤委員のお話にもありましたけれども、学校の先生たち、かなり内発的動機づけを高く、教職員になられている方がほとんどだと思うんです。子どもたちのためにという、その強い使命感のもとの方がほとんどだと思うので、そこを、どうやって内発的動機づけをサポートするかという視点から考えたら、もしかしたら答えはあるんじゃないかなんて思っているところはあるので、何かアイデアに生かしていきたいですよ、本当に。

石田教育長

今まで黙っていても集まってきていたような、そういう状況ではないのは事実なので、やはりちょっと根本的に考えなあかんという意味でもやし、働き方改革を待遇面のものだけに終わらんようにせなあかんという問題提起は、確かにそのとおりかなというふうには思っていますけれどもね。

ほか、ございますか。よろしいですか。

坂本委員

加茂こども園なんですけれども、すごく大きい、人数は多いんですけども、本当になれるまで小一、二カ月かかっていまして、加茂幼稚園から加茂こども園に変わった子どもさんとかも、最初はやっぱりなれないことが多かったんですけども、毎日給食になりましたし、なれない部分があって、ちょっといろんな話聞いていたんですけども、それでもやっぱり変わらず先生がすごく丁寧にかかわってくださっているというところで、本当に皆さん、満足されているというのは本当に肌で感じています。資格

はないんだけどもお手伝いで入る、加配じゃないけれども、お手伝いで入る人も知り合いでいるんですけども、その方が本当に温かいまなざしを持って子どもにかかわっている姿を見ていて本当に感動しますという話も聞いています。

ただ、それが、先生たちの思いだけで一生懸命やっている部分というのが、やっぱりそれが続けるといのはしんどいので、手厚く人を置いてもらうとか、少し働き方のところで余裕があるように変われたらいいなと思いました。

石田教育長 今年度、ここにいる事務局、課長とか課員も割とよく現場に足を向けるようにはなっているので、やっぱり現場の声を事務局として聞き続けていってほしいと思います。

それでは、もしあれでしたら、各委員に何かトピックありましたらと思いますけれども。

加藤委員 来月にも報告あると思うんですけども、6月10日に陽明小学校で文化事業を、文化庁から 高橋課長、あれ文化庁のほうに申請して通ったからいただいた事業なんですか。

学校教育課長 (高橋) 文化庁のほうに申請させていただきまして、申請がおりて補助を得て実施したものであります。

石田教育長 これですか。

加藤委員 そうそう、鼓のやつ。文化庁の、今、課長から報告があったみたいに、補助事業で。来年できるかどうかわからないね、だから。行けたら行きたいと思うんだけども。というのが、その題名が文化芸術による子供育成事業というので、その中で、丹波のほうに今在住してはる上田敦史先生という鼓の先生、まだ30代なんだけれども、重要無形文化財の総合認定者が何かをとってはる人で、僕は前からちょっぴり知り合いでもあって、3年ぐらい前からそういう文化庁の事業をやっているんですと言うてはったから、1回ここだと思っていて。ほんで、カワモトさんの時代からお願いしていたようないきさつがあって。ほんで、課長が6月10日に陽明小学校と緑中に、その上田先生というのが、一時期、小学校上がるまでグリーンハイツに住んではったから、お兄さんも一緒に来てはって、お兄さんは1年生は緑中行ったと言うてはったんで、ほんでそこでスタートしたらど

うとアドバイスをして、そいでその文化庁の事業に当たった、当たったという言い方はおかしいかもしれないけれども、来てもらったんだけども。

ちょうど月曜日の午前中だったんで、ちょっと時間がとれたんで行こうかなと行ってみて、思ったよりすごくて。すごいというのが、僕、何人で来るかどうか何も知らなかったんだけども、要するに、一流の人が5名 5名来たんかな、来て、ちょっと高砂やの能を見せるると同時に、子どもたちの目の前で鼓の説明、ほんで歴史の説明、能楽というのが室町時代にどのように発展したかという話もやるから歴史の話もできる、ほんで子どもたちをグループ分けしておいて、それこそ小鼓から太鼓みたくのも全部、笛も一緒に体験して、ずっとやってはるから、パッケージ化されているから、非常にわかりよかった。ほんで、考えてみたら、僕も能楽嫌いじゃないんだけども、あの距離で見られる。ちょうど、陽明のときには畳があるから、あそこでやっていたから、あの距離で見られる。あんだだけの距離でということは、まず大人になって、僕60になったんだけども、この年になってみたらだからそういう経験は全くない。あの席で見ようと思うと大変な値段なると思うから。子どもらも幸せやなと思って。見ると同時に体験さすのはすごいいいことやと思ってね。

だから、もし申請してできるものならば、ほかでもやっていただくというのが、非常に価値ある授業と思って感心して見ていました。だから、また10月にももう一弾、緑中か何かでやるという話も聞いているんで、そのときはもっと、僕、それこそ地域の方々に、場所さえとれば見に来てもらうなり、地域の方々も、子どもたちの育成事業という目じゃなくて、古典文化に触れるという意味でも物すごく価値の高いこと、本物を見られるからね。だから、みんなにアナウンスして。それこそ文化庁の事業だから、事業自体としても物すごいどっしり、がっしりしたものであるから、もっともっとPRして行って、秋口にはやってもいいかなというような感想を持ちました。

石田教育長

ありがとうございます。

私も経験あるんです。文化庁のやつ、学習内容として教科を横断したような内容で、すごくいい。またぜひ、次あるときは、教育委員の方とか教育の事務方もちょっと見に行かれたら。思っているよりすごいいいですね。何かいろんなジャンルがあるね。たしかオペラから何かあって。特に、若生部長なんかでも、教科書の中に古典芸能が結構入っているんだけども、生を見られないので子どもにイメージ湧かないね。

小学校の教科書にあるのは、あれ何でした、狂言でしたかね。

教育推進部長
(若生) 狂言。

石田教育長 狂言があるんですけども、狂言なんか見たことないから何のことかわからないというのがあって。またぜひ、ちょっとそういう機会。

加藤委員 ただ、文化庁の事業やから、一定期間しか申し込みのときがないねんね。物すごい、春先までには必ず申し込んでおかないと……

石田教育長 割と早目にね。

加藤委員 次の秋にはできないんでね。それで3年ほどかかった。だから、それがあるから、その辺のところはでも注意深くやっておけば、物すごく子どもたちにとって価値あることと思うし。

石田教育長 今、別件で、市内で、農家なんかやられてるところが、学校教育の中で能を提供できる場面がないかというて言われていて、ちょっと私も実際見させていただいて、学校現場にまた紹介しようかなというふうに思っています。ありがとうございます。
ほかに何か。

服部委員 6月6日に宝塚の西谷に行ったんですけども、宝塚の西谷ではちまきをつくってしまして、ちまきをナラガシワと、それからヨシの葉っぱで巻くという、日本でも極めてまれなちまきなんです。宝塚市は、多分、今年度中にそれを無形民俗文化財に指定する予定なんです。いつも言っていますように、川西の黒川にも同じちまきがあって、これも非常に貴重なものなので、ぜひとも無形民俗文化財指定に向けた行動をしていただきたいと思います。
以上です。

石田教育長 1回食べてみやなあかんね。情報で、食べてみんでもええけれども1回見てみないと、何か、いつもそのお話聞くんやけれども、どんな葉っぱなんかなと思ったりして素朴に思うんですけども。わかりました。ありがとうございました。

坂本委員

言っていますか。5月30日に、ファミリー・サポート・センターが主催されている講演会に出席してきました。NPO法人生涯学習サポート兵庫の榎本英樹さんという方のお話だったんですけども、演題が子どもが伸びる本当の優しさということで、ふだんはキャンプとか無人島生活みたいなのをされているNPOの方なんですけれども、本当に、子どものわくわくとかドキドキとかを引き出すというのが、すごくやっぱり知りたいとかやってみたいという気持ちが一番学びに向かう力になるという話をされていました。

それと同時に、本当の優しさって何でしょうねということで、すべてお膳立てして、大人が、これはけがしたらだめだよという準備を全部するとか、先にこれをやっておくとかではなくて、子どもの成長にとってほんまによいことはどういうことなのかということで、失敗を見守ることの大切さとかいうことをお話しされていました。子育て講演会だったんですけども、教育にもすごく通じるなと思いましたので、ここで紹介させていただきます。

石田教育長

またね 資料いただいたかな。

坂本委員

あ、資料は……。

石田教育長

私はもらったね。また共有して供覧したいと思いますので。

特に、あちこち行ってられたときに、うちにも言うているんですけども、それが個人の財産にならんと、みんなで共有でひっかかるところが必要なと言うていたんで、またお願いします。

治部委員

1点だけ。前回の、何でしたっけ、連合会、正式名称がちょっと……

石田教育長

教育委員会連合会。

治部委員

はい。

石田教育長

県の。

治部委員

県のやつ。あそこでのある教育委員さんの発言に、ちょっと僕、疑問を持ったので、もしよかったらみんなに紹介して。こことは、川西市とは関係ないんですけども……

石田教育長

どうぞ。

治部委員

何か僕らの教育の指針になるのかなと思ったんですけれども、あそこである議員さんが、女性議員の会議があって、その女性議員の会を存続させるかみたいな話があったんですね。

石田教育長

ありましたね。

治部委員

あのときに執拗に、男性議員の許可は得ているのかと聞いていたんです。あれが僕、どうしてもやっぱりジェンダーギャップの違和感を感じるんですよ。なぜ女性だから男性の許可を得ないといけないのかなというのを、なぜ繰り返しあんなに聞くんだろうと。もしそれを、例えば会長さんに、経費の面とか運営の観点からと聞くんだったらそれは筋が通っていますけれども、会長さんだとか、あとは本当に運営関係の方でない人の男性のというのは、うーん、どうなんだろうと思って。やっぱりああいうところにまだまだジェンダーギャップを感じるなというのが本音、思ったところですね。あとは、どういう真意があったかはもちろんわからないですけれども、やっぱり教育現場でそういうところを意識していくというのは、子どもたちにとっても大切なことかなんて思いましたけれども。

石田教育長

なるほど。

加藤委員

ちょっとそれは連合会会長として。

石田教育長

そやね、会長がおられるんやからね。

加藤委員

会長さんと言われるとね。僕のことなんですけれども。

皆さん、ちょっとわかりづらいと思うんですけども、県の連合会では女性教育委員の会というのがあって、来週も、今までは、坂本さんも、僕も行くんですけども、連合会の中で女性教育委員の会というのを別につくっておいて、そこで研修会を女性ばかり集まってやるんですね。それ何でつくったかという、歴史的には結構まだ少なかったんです、昔、女性教育委員。それこそ男女同権であるから、もっともっと教育委員の中にも女性教育委員も入ってほしいと、そのためには横のつながりをもっと緊密に持ってもらって活動してほしいという意味で、我が連合会も県の連合会のほ

うも、女性教育委員の研修会にお金を出したりするいきさつもあってね。それが今はもう3分の1が女性になったんです、教育委員は。全体のね。そしたら、県の連合会でも、常任理事会なんかでも言ってるのは、もうそろそろ女性外してもいいんじゃないかというような流れが中にあるって、ほんであそこまで来て、今回も女性教育委員の会という形を出しているんだけど、もうそろそろ役割終わっているかなという感じを持っているんです、僕らはね。

あの場であの発言をされたのは、そこだけ切り取ってしまうと、女性だけ、川島隆太先生を、有名な人を呼んで、呼んだというても小野市と協賛でやっているからお金出してないんですけれども、呼んであの会をしたというのが、その川島隆太先生を呼んだのがすごいというのがまずバックボーンにありまして、何で男性は行けなかったんかということがあって。壇上で、僕は副会長と言っていたのは、僕は役得で行きましたから、女性ばかりの中で僕は会長として行っていますから、僕は聞いてよかったけれどもなというお話をしている、僕らの中では、ああ、そうか、ああいう切り方されるとあんなことになって、ほんで、ああいう切り方をして出してしまうと、委員が言われるように、逆に男性ということ意識し過ぎて、女性と男性と区別してそう言ったというふうにしかならないわけですね。だから、そういう切り方をやられるのが非常に僕らとしても、そのあと実は、三田の委員でしたから、三田にうちの連合会の事務局が電話して真意のほうを、三田の鹿嶽教育長のところに電話して、こうこうこういう理由でこうなっていますというのを説明はしてあるんです。だから、そういう誤解が、そこだけ切り取ると、女性だけ何で肩入れすんねんみたいな、男性の許可をとっているんかとかね……

石田教育長

そうですね。

加藤委員

ねえ。あれだけ聞くと、だから一部切り取って一部出てくるから、また変に聞こえるというね。だから、もう違和感を感じられたのはもっともだと思います。現場をもうちょっと仕切ったらよかったと思っています。反省しております。

石田教育長

私も聞いたときは治部委員と同じことを感じましたね、やはり。ちょっと違和感あるなという。それを通じて考えること自体は大事なかなというふうには思うので、その意見を封殺することはよくないかなと思うんだけど、それを通じて考えなあかんことはあるかな。それ言われたら、女性

校長の会もあるんです。女性管理職の会もありますからね。そこら辺のところの意味合いというのは、やっぱり私たちもよく考えておかなあかんかなと。

一般質問でも、女性の部長職がなぜいないのかというような話で、採用条件にというのがあった。私は、採用条件の問題じゃなくて、もっと根深い女性はその部署につきにくいという社会背景にまでくさびを入れていけないとあかんのっちゃうかなと思いますけれどもね。

ありがとうございました。

私のほうは2点ありまして、1つは、この後、協議会で詳しくはやりたいと思いますけれども、川西中の刃物の逮捕事案がありました。この対応についてということで、いろいろなご意見もいただいていますし、振り返りもしています。

私自身はただ、これは教育長として甘いと言われるかもしれないけれども、なかなか、その現場に立ち会わせたときに100%完璧な行動ができるかというたら、難しいように思うね。ただですよ、そのときにやっぱり最善の行動をとるためには、そういうことがあったときに自分のこととして振り返りをせなあかんのっちゃうかなと思っているので、今度の校長会議でその事案について時系列でちょっと振り返りをしたいなというふうには思っています。

これもいつも思うんですけれども、学校現場、幼稚園、保育所とゆうているけれども、そしたら市役所に入ってきたらどうするのかなといつも思うんですよ。市役所、訓練も何もしていないんじゃないかなと思うてね。パニくりますよ。ぱっと入ってきたら、どうされたんですかと絶対言うやろうなと思いながら見ているんだけれども。その場その場で、遠いところのこのように思わずに、身近で、もしかしたら顔見知りの方がということもあるので、やっぱりそういうところを考えていかなあかんのっちゃうかなというように思っています。

私としては、川西中の動きがベストとは言わないけれども、その場その場で最善を尽くそうとしたというふうには思っています。ただ、やっぱりそのまま置いておいたらいかんので振り返りはしたいし、もしできるんやったら連携推進会議でも共有しないと、窓口、考えてみたら入って一番がこども未来部ですので、やっぱりそこら辺のところも考えていかなあかんなどは思っています。それが1点です。

2点目は、きょう行ってきました中高教科研究会ということで、高校の授業を久しぶりに見て、やっぱりあれやなと思いました。

委員

何。

石田教育長

ちょっと頑張らなあかんと。阿賀指導主事が行っていて、小学校出身なんだけれども、小学校出身の指導主事から見て高校の教育は相当ショックやったみたいやね、やっぱりね。ショックというたらしい意味。大分ちゃうなと思ったんちゃうかなというふうに思っていますね。やはり受験というものがあるので仕方がないんですけども、知識偏重でちょっと古い授業のような気がしました、私はね。高大接続が変わって大学入試が変わるときに、知識がどんなけ求められているかというような授業をしているなというふうな感じがしましたわね。

前も言いましたけれども、文部科学省は高校教育に一番くさびを入れなあかんと思っていますので、そのために大学入試を変えるんやと言っているんで。ただそれは、批判じゃなくて、中高でやっているところにやっぱり入っていかなあかんと思って。この後、またしようと思っているんですけども、高校の校長先生ともちょっと連携して、高校と川西市教育委員会がどんなことできるのかということについては考えていかないと、川西市内の公立高校もかなり厳しい状況になっていますので、地元の公立高校を大切にす意味でも、ちょっと何か連携することを考えていきたいかなというふうには思いました。ちょっと批判じみてしまいましたが。以上で終わります。

それでは、事務状況報告については以上といたします。

では次に、日程第4、報告第4号「専決報告について（令和元年度川西市一般会計補正予算について）」であります。事務局から説明をお願いします。

幼児教育保育
課長（増田）

続きまして、報告第4号、令和元年度川西市一般会計補正予算についてご報告申し上げます。

恐れ入りますが、議案書の2ページと3ページをご覧ください。

本案は、令和元年度川西市一般会計補正予算のうち、教育委員会関係予算について市長に申し出するにつき、教育長に対する事務委任規則4条第1項の規定により専決したものです。

補正予算額の内容につきまして、議案書の3ページをお開きください、令和元年度6月補正予算明細書によりご説明申し上げます。

まず、歳入ですが、ナンバー1におきまして、本年10月から始まる幼児・教育保育の無償化の事務において、現行システムの改修が必要になります。その改修費については国が全額負担することとなっており、当初予

算において国庫負担金として572万円を計上してはいましたが、その後、国から補助金として交付されることが明らかになったため、国庫補助金として計上し直すため減額するものであります。

ナンバー2では、幼児教育・保育の無償化の事務に係る事務費及びシステム改修費に対する国庫補助金として、ナンバー1で減額しました572万円を含めた2,864万2,000円を計上しております。

続きまして、歳出にまいります。

ナンバー1の児童福祉費の保育所運営事業賃金におきまして、幼児教育無償化事務に対応するため、7月より新たに雇用する臨時職員の賃金として311万2,000円を追加いたしました。

ナンバー2の保育所運営事業需用費におきまして、無償化事務に必要な消耗品費として19万3,000円を追加いたしました。

ナンバー3の保育所運営事業役務費におきまして、無償化対象者へ発送する通知の郵送費用として41万円を追加いたしました。

ナンバー4の保育所運営事業委託料におきまして、無償化に伴うシステム改修の委託料として1,336万9,000円を追加いたしました。

ナンバー5の保育所運営事業備品購入費におきまして、無償化に伴い発生する書類を保管するロッカーや、無償化通知を対象者へ発送する際の通知文書の紙折り、封入封緘作業を自動化する封入封緘器などの購入費用として353万6,000円を追加いたしました。

以上、ご承認賜りますようよろしくお願いいたします。

石田教育長 説明は終わりました。只今の説明について、質疑・ご意見等はございませんか。

前回協議会で中身について詳細に説明していただいたかと思えますので、よろしいですか。

石田教育長 それでは、お諮りいたします。報告第4号につきまして、これを承認することにご異議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」の声)

石田教育長 ご異議なしと認めます。よって、報告第4号につきましては、承認されました。

石田教育長 では次に、日程第5、議案第14号「図書館協議会委員の委嘱又は任命

について」であります。事務局から説明をお願いします。

中央図書館長
(村山) それでは、議案第14号「図書館協議会委員の委嘱又は任命について」
ご説明申し上げます。

石田教育長 座ってどうぞ。

中央図書館長
(村山) 議案書の4ページをお開き願います。
本案は、図書館協議会委員の委嘱又は任命について、川西市教育委員会
事務処理規則第10条第1号の規定により議決を求めるものでございます。
提案理由は、現在の図書館協議会委員の任期が本年6月30日までであ
ることに伴い、新たに委嘱または任命する必要があるためでございます。
委嘱または任命を予定しております委員は、議案書5ページ、資料1に記
載しているとおりでございます。委員の定数は、川西市立図書館の設置及
び管理に関する条例第8条第2項で10人以内と規定されており、これま
でと同様、10人を予定しております。

次に、委員の選出区分につきましては、同上第8条第3項の第1号で、
学校教育及び社会教育の関係者、第2号で家庭教育の向上に資する活動
を行う者、第3号で学識経験のある者と規定されております。当該規定に基
づき人選いたしました結果、第1号、学校教育関係者として、就学前教育
から幼稚園、小学校、中学校の校園長及び市内の県立高校の司書教諭の計
4名を、また、社会教育関係者として、本市の社会教育委員から2名と社
会福祉協議会等の音訳ボランティア1名の計3名を、第2号、家庭教育の
向上に資する活動を行う者につきましては、地域や学校等で子育て支援や
子どもの読書活動推進に携わるボランティアから1名と公募による1名の
合計2名を、それから、第3号、学識経験のある者につきましては大学講
師1名を選出し、合計10名で構成しようとするものです。

今回の改選では、再任となる委員が7名、新任となる委員は3名となっ
ております。

名簿10番の委員は公募による選出であり、資料2のとおり、川西市図
書館協議会委員選考委員において審査の上、決定いたしました。今回、応
募者は1名にとどまりましたが、応募資格、また子育て支援や子どもの読
書活動に関する活動経歴を十分に満たしており、図書館が子どもたちにで
きることをテーマとしました応募作文では、図書館の児童書の蔵書構成や
児童対象の行事について、ご自身の図書館利用や活動経験から具体的な提
案が述べられておりました。新たな視点からご意見をいただき、今後の図

書館サービスの参考にしていけるものと考えます。

最後に、委員10名の任期につきましては、令和元年7月1日から令和3年6月30日の2年間でございます。任期中は、図書館の事業について、また市民サービスの向上や運営についてご意見を頂戴してまいります。

説明は以上でございます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

石田教育長

説明は終わりました。只今の説明について、質疑・ご意見等はございませんか。

加藤委員

10番の方1名だけけれども、今回はたまたま条件に合った方で、よい方を選ばれてよかったかと思うんですけども、もし応募がないとか、ない場合は応募期間延ばすか何かの手もあるんでしょうけれども、それが欠員になってしまうような事態が出たときには、もう一回、再募集しなくちゃいけないことなんですかね。9名でいってもいいのか、10名確実に要るのか。

中央図書館長
(村山)

規定上で申しますと、10名以内という規定になっておりますので、9名でも開催ができないということはございません。ですので、もし1名満たないということに、公募、たまたま今回、いい方が来られましたけれども、満たない場合は再度公募するというのが1つと、それから9名で構成していくということが1つ、もしくは事務局でもう少し探してみるというような手段になるのかなと思います。その辺は、また選考委員会で協議をしてのことになるかと思えます。

加藤委員

ありがとうございます。

石田教育長

よろしいですか。

ほか、ございませんか。よろしいですか。

この10番の方は、役職等のところに活動と書いてあるんですが、小学校の読み聞かせとかクリエイティブ発見ラボというのは具体的にはどんなことされているんですか。

中央図書館長
(村山)

子ども クリエイティブ発見ラボと、ちょっとタイトルだけではわかりにくいんですけども、子どもが、自然遊びや昔遊び、またアート制作、それから他者との交流を通じまして自主性を促すような子育て支援をされ

ているというサークルになります。川西市市民活動の助成金の対象団体に選ばれたりですとか、あと、川西まちなか美術館のほうにも例年出展されているなどの経歴があります。例としては、廃材アートを使ったワークショップなどもされております。

石田教育長 ありがとうございました。
 じゃ、よろしいですか。

石田教育長 それでは、お諮りいたします。議案第14号につきまして、これを可決することにご異議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」の声)

石田教育長 ご異議なしと認めます。よって、議案第14号につきましては、可決されました。

石田教育長 では、以上で本日の議事はすべて終わりました。

石田教育長 次回の定例教育委員会は、7月18日(木)午後2時から、庁議室において開会の予定です。

石田教育長 これをもちまして、第9回川西市教育委員会(定例会)を閉会いたします。どうもありがとうございました。

[閉会 午後3時44分]

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めましたので、ここに署名いたします。

令和元年7月18日

署名委員 服 部 保

坂 本 かおり